

アメリカ合衆国駐日本国特命全権大使 ジョン・トーマス・シーファー閣下（各通）  
米海兵隊岩国航空基地司令官 マイケル・A・オハローラン大佐 様

### 岩国基地航空ショーへのB52の参加中止について（要請）

今年5月5日に開催される米海兵隊岩国航空基地内を一般に開放する「フレンドシップデー」の航空ショーに、核兵器搭載可能なB52戦略爆撃機が初めて参加するとの報に接した。

B52は、昭和41年（1966年）にスペインで、昭和43年（1968年）にはグリーンランドで、核兵器を搭載した状況での墜落事故を相次いで起こしている。日本でも、昭和43年（1968年）に沖縄県の嘉手納基地で爆発事故を起こし、大きな問題となった。最近でも、昨年8月、B52が核兵器を誤って搭載したまま、米本土上空を飛行したことが報道された。

B52の飛来に関しては、昭和47年（1972年）、当時の大平正芳外務大臣が米国駐日大使に対し、国民感情の上で台風避難等真にやむを得ない場合に限定するよう申し入れ、米国側も台風避難その他の緊急事態を避ける場合のみに厳重に限定すると回答している。今回のB52の航空ショーへの参加は、昭和47年（1972年）に米国側が回答した台風避難その他の緊急事態には該当しないものであることは明らかである。

さらに、人類史上初の被爆都市であり、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を訴え続けている本市の間近な上空を、核兵器搭載可能なB52が飛行することは、被爆者をばじめとする多くの広島市民の感情としても容認できるものではない。

こうしたことから、5月5日の航空ショーにB52を参加させないよう強く要請する。

2008年（平成20年）4月25日

広島市長 秋葉 忠利